

復興まちづくり懇談会の開催結果報告

1. 講演 「明るいまち、釜石をつくろう」(講演者：建築家 伊東豊雄)

開催日時 平成 23 年 8 月 6 日 (土) 12:00 ~ 13:00

開催場所 沿岸広域振興局 4 階大会議室

参加者数 59 名

1.1 講演の位置づけ

伊藤豊雄氏個人の夢を参加者の皆さんへ話す。

将来のまちづくりの材料の提供を行う。

架空でもなく、現実でもなく、その中間の絵を提示する。

1.2 講演内容

1. 今治の取り組み みんなの家

- ・今治市に伊藤豊雄ミュージアムがオープン。鵜住居小学校の生徒を招待。
- ・「みんなの家」と題し、今治の子供 700 人が絵を描いた。伊藤豊雄が進めているプロジェクト。

2. 熊本アートポリスと仙台のみんなの家の事例

- ・伊東氏は熊本県のアートポリス事業のコミッショナーをやっている。熊本県が、熊本の木材、職人を供給し、仙台市の宮城野区に仮設住宅第 1 号を建設中。

3. みんなの家の進め方

- ・近所で集まって、相談できる場所をつくってはどうか。新築でなくとも、半壊建物を仮囲い等することでみんなの集まる場所とする。集まってこれからまちをどうするか相談するための拠点をつくる。(ここにいつでも集まって話せばいい)



4. みんなの家の具体的な提案例

- ・みんなの家の例（伊東氏の昔からの考え）

桜が咲くと、自然に人々が集い、幔幕で宴会して、後は元の自然に戻る。

理想的な使い方

- ・釜石のみんなの家を5人の会の難波先生が提案。丸太を縦方向に積み上げるログハウス。鈴子のバス停の近くに設置する。大只越にも計画をしている。

5. 坂の美しい街

- ・今後、釜石は高い場所の活用が必要になる。しかし、単に安心・安全だけでは、いいまちにならない。空間的な工夫が必要となる。坂を活かすことが重要である。

たとえば、

尾道の坂：坂道からの海の眺望。若い人がただ坂を歩きに来ている。

長崎の坂：きれいな坂。

函館の坂：海や船が見える景色。全てが良い景観となっている。

6. 斜面に住む

- ・山裾開発し斜面に住むことができるだろうか？伊東塾の塾生と検討を重ねている。

たとえば、ギリシャのサントリーニ島。インフラ先行ではなく、住居とインフラが一体となって、集落を形成していてすばらしい。防災などの空間的な工夫をすればよいまちになる。スペインのカサレス。景観の統一により魅力的なまちになる。地形を細かく読み込むことがかぎとなる。

7. 鵜住居の斜面で検討

- ・鵜住居の山際の断面は、緩くても30度で急傾斜。伊東塾の塾生が煉瓦



を積み重ねたような建築を提案。鵜住居の谷合は景色が良い。獅子踊り、産直など魅力的な資源も多い。ここでこそ、谷側に沿って家を作ったらよい。

8. 市場の提案

- ・バルセロナには方々に市場がある。カジュアルな市場がにぎわっている。有名な建築家が古い市場の屋根だけ葺いただけで名所になった。マルセイユの陽射しの明るさを釜石に取り込む。
- ・釜石東部地区の商店街。アルゼンチンのボタ地区の事例。芸術家が古い建物の壁をトタンで囲い、カラフルに仕上げた。それだけで観光客が世界から訪れる。被災して建物が抜けたので、残存建物の側面が露出した。壁面の活用機会。

9. コミュニティセンターとしての学校

- ・熊本県宇土市の小学校改築に事例。ちょっと工夫すれば、通常と同コストで魅力的な学校はできる。

10. スタジアムのあるまち

- ・台湾の高雄のスタジアムの事例。締め切らず開放した。自然の風が抜けるスタジアム、ソーラーパネルで遮光（暑さ対策）

11. みんなの家からみんなのまちへ

- ・東部地区

魚市場 商店街のひとの流れと津波防御を考える。呑兵衛横丁の桜並木を提案。あおば通りや市役所を坂として整備してもっと魅力的な坂のあるまちを考える。あおば通りの都市下水路は、常に水が流れる工夫をしたらどうか。市役所周辺に緩やかにカーブする美しい坂ができるに違いない。中番庫にガレキを覆土したマウンドを設置し緑化することも考えられる。斜面の山裾に沿ってコンクリート建築も考えられるのではないかな。

- ・ 鵜住居地区

スタジアムに防潮機能も付加したものとする。簡易なマウンド+芝のスタンドを考えてはどうか。また、幹線道路を嵩上げし、住宅地も盛土などで嵩上げ、斜面にも住宅を配置して居住地を確保してはどうか？

2. 復興まちづくり懇談会開催概要

開催日時 鵜住居地区：平成 23 年 8 月 6 日（土）13:30～17:00

東部地区：平成 23 年 8 月 7 日（日）10:00～14:00

開催場所 沿岸広域振興局 4 階大会議室

参加者数 鵜住居地区 59 人 東部地区 29 人

開催目的：復興まちづくり計画を策定するにあたり広く市民の意見を伺い、参加者の意見交換によりほかの考え方も考慮して方向性をみんなで考える。

2.1 鵜住居地区での意見

【地域の資源を見直し活用】

- ・ 海沿い、ビオトープなどの資産を有効に活用。都市機能とビオトープの境界に防波堤機能を設置し、桜並木などをつくる。箱崎半島の資源を有効活用する。
- ・ 公園として土地利用する場合は、ゾーン分けをして使い方を変える。（たとえば バーベキューできる場所、メモリアルパーク、花見スポット 通常時は公園、イベント時はスタジアム）

【道路】

- ・ 避難道路の整備が必要。（三陸縦断自動車道への避難時アクセス等）釜石市街地とつながる道路が重要。
- ・ 三陸縦貫自動車道の早期整備が必要。



- ・国道 45 号の嵩上げ。津波を防ぐだけでなく、高架橋で奥にいなす。
(昭和三陸津波では堤防はなかったが、死亡者がいなかった。てんでんこの言い伝えが生きていた。今回はハードに頼りすぎた。)

【まちづくり】

- ・学校：まちづくりの中心がよい。(子供が多い地区の近くが良い。)
今回の震災は子供が学校にいる間に起きた。迎えにいった被災した人もいる。安心な場所に子供がいればそれは防げた。小学校は非浸水エリアの高台へ。防災機能との一体化(分散案も一部にあり)
- ・駅：嵩上げを基本と考える。利用者の多くは、高齢者と高校生。学校と一緒に考える。
- ・都市機能：三陸縦貫自動車道のIC周辺に集約するのが良い。
商業地はたくさんいない。(人口減少。車社会で遠くに買い物。高齢化を考慮する)
- ・公共施設：設置場所については今回の被災状況を十分に分析が必要。公共施設は、分散させることで避難場所が増えてより安全。

【避難】

- ・子どもたちが大人よりも避難行動が立派だった
- ・地形による津波の高さ確認。ハードに頼りすぎたことを反省することが必要。被災しなかった原因を調べる。
- ・今回は情報が不足して困った。情報伝達等のソフト対策も重要

【その他】

- ・コミュニティーづくりが重要(新たなコミュニティーの形成や話し合いの場が必要)
- ・ここに帰ってこられるか?土地利用はどうするか?早く知りたい状況
- ・復興に関する情報発信が不足。(ワークショップなどの情報も含めて)
- ・終の棲家として時間が間に合うのか?(復興のスピードを速める)



【現状の課題】

- ・仮設住宅間の道路が不十分。買い物、通学の道路の改善。在宅介護の方々の利便性の改善。
- ・仮設住宅に行く道に街灯がない。(真っ暗な中を女子高生が通学していて危険)
- ・箱崎半島の冠水する道路の改善。



2.2 東部地区での意見

【産業、商業】

- ・スピードある復旧を。商店が困っている。どうしたらよいか分からない。
- ・観光PR、魚市場活性化。俺たちは海で育った。海が中心。魚の街。
- ・高台から見た景観が釜石らしさをあらわす。
- ・商店街は歩車分離にして人が歩ける通りとする。呑兵衛横丁周辺は桜並木にする。
- ・商店街は、復興住宅とリンクさせる。
- ・働くことが必要。漁業で活気が出る。浜の活性化が必要。
- ・若い人の遊ぶ場が求められている。震災を機に戻ってくる人の活用。
- ・地元の声を大切にしてみちづくりに取り入れる。
- ・商業。多目的なビル。映画館やいろいろな複合的、集客力ある施設。

【安全】

- ・まちの守り方は、防波堤の高さが決まっていなくて分からないので話せない。
- ・避難：山に逃げるのを基本。（避難道路整備が必要。）
山から遠い場所は、避難ビルを設置。（避難ビルをつなげて山に逃げる手段を確保）
- ・防潮堤の水門は、重くて閉じられないため人力でない方法があると良い。
- ・防潮堤、湾口防波堤は最低現状復旧が必要。
- ・盛土：土木工事で作るものより建築の方が景観的にも良く見える。

【住まい】

- ・永年住んでといたところに戻り、住みたい。そこが住めるかを早く示してほしい。復興住宅を避難ビルとして整備し、商店などを加え複合ビルにする。

【その他】

- ・この会議は何回もやっているが前進していない。会議の仕方を変える必要がある。たとえば、行政側がまちに出て話を聞く、コミュニティから具体的な提案を聞く。被災程度により考えが異なる。被災状況に応じた話し合いも必要。コミュニケーションが重要。
- ・命を守る真剣さが足りない。
- ・「まちづくり」って？まちづくりより生活。
- ・市民の意見を聞くことに関して、市が意思表示していないので困惑している。
- ・避難所の情報が不足。
- ・今の安全も確保してほしい。信号がないので子供が安心して歩けない。(交通事故)

